

令和4年度 学校教育自己診断の分析・考察

◎学習指導等

・学校教育自己診断（教職員）の「授業力向上のため、工夫・改善に努めている」が 肯定率 89.7% となり、前年度 84%から向上した。生徒1人1台端末 やICT機器を用いて効率よく授業改善に取り組み、校内で研修会や研究授業を実施してきたことがこの結果となった要因と考える。

・学校教育自己診断（生徒）の「いちばん望む授業形態」については、①高校生として基礎学力が身につく授業（34.8%）、②生徒に応じて授業レベルやスピードを調整する授業（34.6%）が高い割合であり、学校教育 自己診断（教職員）において、「授業で一番気をつけていること」の回答として、①は 48.7%、②は 38.5%となり生徒と同じ傾向である。保護者が一番望んでいるのは③「進路希望が実現できる授業」であるが、①、②が組み合わせることで進路実現がより可能となるので、生徒一人ひとりの理解を確かめながら授業を行うことを意識していきたい。

◎生徒指導等

・学校教育自己診断（生徒）の「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」の肯定率が 64 %、学校教育自己診断（保護者）の「子どもが困った事や悩みがある 時、先生は相談に乗ってくれる」の肯定率が 79.3%であった。新型コロナによる不安や各個人の悩みなどに SC・SSW などの外部人材と連携し、これまで同様丁寧に相談に乗っていく必要がある。

・学校教育自己診断（生徒）の「生活指導は先生が協力して適切に行っている」が肯定率 82.3%であり、生活指導面で生徒が一定の評価をしていると考える。

◎学校運営

・学校教育自己診断（教職員）の「緊急の課題に対して迅速な対応ができている」は 肯定率 87.2% となり、昨年の 78%より上昇した。また学校教育自己診断（教職員）の「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は肯定率 79.5%となりいずれも高い肯定率となっている。新型コロナなど緊急対応を必要とされる場面が多かったが今後も組織的な学校運営ができるよう意識する必要がある。